

ひかりのこ

8,9月園便り
認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2021年8月18日

月主題：祈り合う、心かよわせて

新型コロナウイルスの拡大が止まりません。幼稚園は今日から2学期を迎えますが、引き続き感染防止のために、健康観察、消毒、できる限りのソーシャルディスタンスを取ってまいります。

職員は、先月から、1～2回目のワクチンをうっております。また、毎週PCR検査を行って、職員から子どもたちに感染させることのないよう、細心の注意を払っております。

さて、夏休みに入って間もない、7月24日（土）、幼稚園の本格的な建築を始めるにあたって「起工式」が行われました。いつも保護者の皆様にご利用されていた駐車場にテントを張って、司式を本学園の理事長でいらっしゃる植松誠主教、補式を幼稚園のチャプレンでいらっしゃる下澤先生、上平先生をお願いいたしました。

司式の中で、「全能の神よ、あなたはここに聖ミカエル幼稚園を建築しようという良い願いを持たせてくださいました。どうかこの土地を清めて工事を祝福し、働く人を守って災害を防ぎ、主の恵みによって、無事に完成することができめすように、御子、わたしたちの主イエスキリストによってお願いします。アーメン」とお祈りしてくださいました。

この数年間、私たち職員・並びに教会は、地域の子どものため、キリスト教精神に根ざした良い保育を未来に向けて続けていくため「ミカエル幼稚園を新しい園舎に」と突き進んでまいりました。

しかし、不安もいっぱいありました。規模が大きくなる幼稚園を運営できるのか、良い職員が与えられるか、地域にミカエルの変革は受け入れられるのか、など。しかし、このように皆様にお祈りをさせていただいて、「ああ、全て大丈夫だ。」と肩の力がすたとんと落ちました。

今までずっとこの美香保の地に根を張り、教会とともに歩んできた聖ミカエル幼稚園。これからは、幼保連携型認定こども園

として、乳幼児からの受け入れを始めます。先生たちも来年度に向けて、様々なことを議論し、考えながら準備を始めています。すべては神様の御心の内にある働きと感じ、希望をもって進んでいきたいと思っております。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「アウシュビッツのコルベ神父」

第二次大戦中、400万人とも言われるユダヤ人、ポーランド人、シブシー、障がい者がナチス・ドイツによって組織的に命を奪われました。命を失った一人に、日本にも滞在したことがある修道士で、コルベ神父という人がいます。アウシュビッツ強制収容所で、ある日、脱走者が出たために、同じ房にいた数名が連帯責任で処刑されることになりました。その時、一人の男性が自分には妻も子どももいると泣き流しました。すると、コルベ神父が手を挙げ、自分がその男性の身代わりになると申し出たのです。そして、神父は飢餓室に入れられ、息絶えました。カトリック教会は、1982年に神父を聖人に列しました。

人の身代わりに自分の命を差し出すなんて、ほとんど通常では考えられません。私もコルベ神父のことを知った時、自分には絶対にできないと思いました。でも、改めて考えてみると、コルベ神父も、自分がそんなことをするとは想像もしなかったはずです。何がそうさせたのか考えてみると、人は突然に大きな愛を差し出すことはできないけれど、小さな愛を日々、積み重ねていくことはできます。コルベ神父は、それまでの毎日の小さな愛の蓄えがあったからこそ、いざという時に大きな愛を実践できたのではないかと想像します。誰にでもできるさやかな愛、家庭でも職場でもできる、そんな小さな愛の積み重ねがいかに大切なことか、思い巡らしたいものです。

チャプレン 司祭 下澤 昌